



※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和5年11月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

※部長名は、紙面の都合上「**部長**」で統一して表記しています。



なかの けんたろう
中野 健太郎
(明和)

富士山一周ナショナルサイクルルート(NCR)実現に向けた取組と自転車文化の醸成について

問 しまなみ海道やビワイチはNCR創設前から自治体独自の受入体制を整え、効果実績を上げている。コンビニエンスストアや商店にサイクルステーション設置の協力を求める等、富士宮市独自の取組を進めるべき。

部長 まずは静岡、山梨両県が中心となった推進協議会のアクションプランを確認し、内容に沿うよう関係者一体で進めていきたい。

問 誰もが健康で安全にサイクリングを楽しむため策定した自転車活用推進計画がある。熱意を持って取り組んでほしいが、いかがか。

市長 富士宮市を日本一のEバイク、自転車のまちにしたい。富士山を取り巻くまちと連携し合い、自転車で活かされるまちにしていきたい。

問 安心安全に乗れる環境づくりとして、高校生議会でも提案のあった、ヘルメット購入費の補助を導入すべき。

部長 市内での購入を対象に、年齢制限なし、2千円を限度額で検討を進めている。

多死社会到来と終活支援について

問 市内独り暮らし高齢者は5,376世帯で、10年で2,145世帯増えた。高齢夫婦世帯も市全体の12.65%を占めていることから、終活支援の潜在的ニーズは高まっているのではないか。

部長 職員が地域に入り、終活の意識の薄いところへのアプローチを意識的に取り組んでいる。

問 市職員も専門職もこれまで以上の人手不足が想定される。相談にはデジタル技術によるチャットボット導入、シェアリングエコノミー(人材の共有化)が必要ではないか。

部長 社会福祉施設長会でも現場のDX活用の質問が出ていて、必要性を感じている。情報を収集して、現場の負担軽減策は市も一緒に考えていく必要がある。



つじむら たける
辻村 岳瑠
(明和)

タブレット端末を活用した「こどもの相談窓口」

問 児童生徒の声を聴くために「こども相談窓口」として、1人1台配布されているタブレット端末を活用した相談窓口を設置してみてもは。

教育長 令和6年度から、1人1台端末を活用した相談窓口として、心の健康チェックの実施ができるよう検討している。児童生徒は、身近にある端末を活用することで、いつでも、どこからでも心身の健康状態が表明できるため、それを活用した不登校やいじめ予防、さらには自殺予防につなげていきたいと考えている。

問 そういった子どもの一次情報は、教育機関でのみ共有するのか。

教育長 子どものセーフティーネットのため、できるだけ大勢の方で共有することを考えている。

意見 こどもを真ん中にした社会づくりには、大人が相手の立場で物事を考える環境が大切である。理解してから理解されるという基本的なことへの意識変革を期待する。

地域デジタル通貨「(仮称)みーや」

問 人口減少に伴い、市内消費活動は弱まり、地域経済は縮小することが予想される。持続可能な市内経済活動を支えるため、その一つの方法である地域デジタル通貨の導入を提案する。

部長 現時点ではまだ導入は難しい。

部長 導入に向けた課題整理とその解決方法を模索するための研究を進めていく。

副市長 持続できるのかなどの課題はあるが、地域デジタル通貨の魅力は検討する価値はある。

道の駅を活用した西の玄関口について

問 西の玄関口にふさわしい、道の駅を活用した新たな就業創出で地域の活力を向上できないか。

市長 場所の適格性と周囲の方の賛成がまず重要である。